



よろこびを敷きつめる

株主・投資家のみなさまへ

第159期 中間報告書

2022年4月1日 ▶ 2022年9月30日

東リ株式会社

証券コード／7971

株主・投資家のみなさまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第159期中間期(2022年4月1日～2022年9月30日)が終了いたしましたので、当社グループの事業活動についてご報告申し上げます。

第159期中間期(2022年4月1日～2022年9月30日)の事業の概要

当中間期の日本経済は、春先からの新型コロナウイルス感染症第6波が落ち着きをみせたのも束の間、第7波が到来し、経済活動の本格的な回復にブレーキをかける形となりました。世界経済に目を向けますと、金融政策の方向性の違いや地政学リスクの異様な高まりなどにより、経済回復ペースは鈍化し、先行きの不確実性はますます高まっております。



代表取締役社長

永嶋元博

当社グループの事業と関連性の深い建設業界では、非住宅投資で回復の動きが続くものの、原材料調達環境の悪化に伴い各種建築資材の供給不安が増幅し、不安定な事業環境が続いております。

当中間期におきましては、昨年来の数次にわたる原材料コストの上昇に対応すべく、タイルカーペット用ナイロン原糸の内製化やリサイクル原材料使用比率の向上をはじめとした製造原価低減に注力すると共に、5月の第2次、9月には第3次となる販売価格改定を打ち出し、収益改善に努めました。昨年秋の第1次販売価格改定から始まり、過去に経験のない短期間で複数回に及び価格改定ではありましたが、グループ販売会社を含めた全国代理店様の協力を得て、当初の想定を上回るペースで浸透いたしました。

しかしながら、当中間期においても主要原材料価格の上昇が続き、後追いによる第2次の価格改定効果は一定程度にとどまっております。第3次の価格改定に引き続き取り組み、下半期並びに次年度の収益改善につなげてまいります。

商品開発面では、ビニル床タイルとセラミックタイルの長所を兼ね備えた新・第3の床材「タフテックタイル」、環境配慮型タイルカーペット「GA-3600サスティブバック」、抗ウイルス壁紙を収録した汎用タイプビニル壁紙「VS」等、未来のライフスタイルをデザインする多数の新商品を発売し、販促活動に注力いたしました。

グローバル市場におきましては、世界規模での景気回復が期待される中、長らく中断しておりました対面営業活動を再開し、各地域の特色を生かした営業活動を展開いたしました。中国国内の販売を担う東璃(上海)貿易有限公司でも、ゼロコロナ政策による中国経済の一時的な停滞も見られましたが、回復基調が続いております。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における連結業績は、売上高42,754百万円（前年同期比6.3%増）、営業損失68百万円（前年同期 営業損失263百万円）、経常利益17百万円（前年同期 経常損失34百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失67百万円（前年同期 四半期純損失3百万円）となりました。

中期経営計画「SHINKA Plus ONE」の推進

当社グループは、長期ビジョン＜TOLI VISION 2030＞の実現に向けた中期経営計画「SHINKA Plus ONE」を掲げ、経済的価値と社会的価値の両立を目指し、成長に向けた取り組みテーマを推進しております。

中長期の成長に向けた取り組み事例 ～ その① 環境対応とコストダウンの両立

取り組みテーマの一つであります「社会課題の解決と事業活動の一体化」に向けて、リサイクル事業の推進に注力しております。今年度は、滋賀東リ株式会社のタイルカーペットリサイクル1号プラントが本格稼働し、タイルカーペット「GA-3600サスティブバック」を発売いたしました。さらなるリサイクル率の向上を目的として、2倍強の処理能力を有するタイルカーペットリサイクル2号プラントの増設にも着手しております。持続可能な社会の実現に向けて、処理能力の拡大と共に、広域認定制度を活用した「TOLI完全循環型リサイクルシステム」の推進体制を強化し、使用済みタイルカーペットの市中廃材回収にも積極的に取り組み、産業廃棄物排出量の削減に繋げてまいります。そして、この取り組みを製造原価低減へと結びつけ、環境対応とコストダウンの両立を図ってまいります。

中長期の成長に向けた取り組み事例 ～ その② 国内最大級のビニル床シート工場の誕生

「モノづくり力」の強化におきましては、ビニル床シート製造会社「広化東リフロア・第二工場」の新3号ラインの建設が進行し、本番稼働に向けた準備を進めております。同ラインは、主力製品の製造原価低減と将来に向けた新製品開発を目的とした当社独自のビニル系床材製造設備となります。建設真只中の2021年には新型コロナウイルス感染症拡大に見舞われ、工事が一時中断する事態となりましたが、協力会社様のご尽力により、概ね計画通りに進行しております。今後の新製品開発に向けた研究開発活動により一層注力し、ビニル系床材分野における競争力をさらに高めてまいります。

今後の見通し

当中間期以降は、原油価格の高止まりと円安進行により、依然として主要原材料価格の高騰が続くと見込まれ、厳しい経営環境が予想されます。

そのような中、製造原価低減と間接経費の縮減と共に、9月より実施しております第3次販売価格改定の浸透を図り、収益改善に努めてまいります。

このような状況を踏まえ、2023年3月期の通期連結業績予想は、売上高94,500百万円（前年同期比6.8%増）、営業利益1,850百万円（前年同期比110.7%増）、経常利益2,000百万円（前年同期比60.7%増）、親会社株主に帰属する当期純利益1,200百万円（前年同期比66.6%増）を見込んでおります。

今後も企業価値向上に引き続き努めてまいりますので、株主・投資家のみなさまにおかれましては、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

クローズアップ

国内営業戦略

「お客様との信頼を大切に」

常務執行役員
営業本部長

中野 洋二



当社は100年以上にわたり、多くのお客様に支えられ成長してまいりました。これは「お客様目線のモノづくり」と「その良さをしっかりとお伝えする」ことを続けてきた成果だと考えます。営業活動において、建築主や設計・デザイン事務所、内装仕上げ材取扱企業様へのPRは、今も昔も変わらずコアで最も重要な活動です。新製品発表会や商品説明会などは未だ活動に制約がありますが、Web新製品発表会やメルマガなどの活用も工夫しながらお客様との関係を強化してまいります。そして、通常の対面活動が可能になれば、従来以上に注力したいのが「工場見学会」です。見本帳の小さな現物や写真などでしか紹介できない製品を、工場の製造過程で「実物」のサイズ感で見ただけ、ナマの製品力を感じていただける製造メーカーだからこそできる取り組みです。今後も中心となる営業活動は、ぶれることなくお客様との信頼を大切に力を注いでまいります。

また、ユーザーのニーズや困り事を製品に反映させていくことも営業の使命です。一般社団法人日本バレーボールリーグ機構と共同開発したバレーボール競技専用のフロアマット「コネクトマット」はその一つです。既設体育館の床に繰り返し敷設可能なビニル床タイルであり、アスリートのみなさまよりクッション性やグリップ感などについても最適との評価をいただいております。日頃の営業活動において、新たな成長の原石を数多く創出できるよう常にアンテナを張りめぐらせ、価値あるモノづくりにつなげてまいります。

どれだけの変化や進化があろうとも、暮らしの豊かさや快適さは心のビタミン剤です。ライフスタイルをデザインする企業として、インテリアを通して人々の生活を豊かにすることで社会に貢献してまいります。

NEWS CLIP

01

大阪・梅田を代表する大型複合施設が誕生 当社製品がクオリティの高い空間づくりに貢献

大阪の中心部・梅田の新たなランドマークとして、「大阪梅田ツインタワーズ・サウス」が全面開業しました。2つのビルを一体化して建て替える都市再生事業として進められ、「梅田木立(うめだこだち)」をコンセプトに、人とまちと建築が有機的に繋がる「まち」が実現しました。

当社のタイルカーペットは、カンファレンスゾーンとオフィス基準階に採用されました。カンファレンスゾーンは、人々が集い交流する様を表現した動きのある重層的な柄の特注タイルカーペットです。オフィス基準階のタイルカーペットは、「木漏れ日」をテーマに、濃淡柄とストライプを組み合わせた奥行き感のある柄がデザインされました。



カンファレンスゾーンの特注タイルカーペット

大阪梅田ツインタワーズ・サウス

所	在	地：大阪市北区梅田一丁目13番1号
建	築	主：阪神電気鉄道(株)、阪急電鉄(株)
基本計画・特区申請・基本設計：(株)日本設計		
設	計	・ 施 工：(株)竹中工務店
材	料	(東 リ 製 品)：特注タイルカーペット
完		工：2022年2月

NEWS CLIP
02自然が生み出す不均一感が魅力の単層タイルを
新ブランドとしてリニューアル

当社は1963年に自然由来の炭酸カルシウムを主成分とした単層構造のビニル床タイル「マチコV」を発売して以来、様々な単層ビニル床タイルを展開してきました。本年7月、コンポジションタイルの中でもデザイン性の高い5品種をワックスメンテナンスが不要なNWシリーズとしてリニューアルし、新ブランド「LCT (Luxury Calcium carbonate Tile) シリーズ」を立ち上げました。

LCTシリーズは、粘土を練り混ぜるようにして生まれる独特の質感とデザインが魅力で、単層構造のため歩行などによる耐久性にも優れ、全層が有効摩耗層となるデザインが特長です。また、自然由来にふさわしく、製造時に発生する端材などをビニル床タイルの原材料として再利用するほか、ビニルハウスとして使用した農業用ビニルを再生利用し産業廃棄物削減にも寄与しております。新しく生まれ変わったLCTシリーズが、様々な施設の空間を豊かにしてまいります。



LCTシリーズのラインアップ



大胆な柄が特長「ダイナミックストーン」の施工事例

明治大学 和泉ラーニングスクエア

所在地：東京都杉並区

設計：(株)松田平田設計

完工：2022年3月

NEWS CLIP 03 「TOLI完全循環型リサイクルシステム」を推進 エコマーク認定のタイルカーペットを新発売

当社はタイルカーペットの「TOLI完全循環型リサイクルシステム」を推進しております。2021年には製造時のタイルカーペット廃材を、パイル層（表面繊維層）とバックキング層（塩ビ樹脂層）に分離することなく、全層をタイルカーペット材料にリサイクルする新しい技術確立しました。また、オフィスのリニューアル等で排出された使用済みタイルカーペット廃材についても、広域認定制度を活用して当社が回収し、リサイクルする取り組みを推進しております。

これらの取り組みを活かし、今年6月にエコマーク認定商品の「GA-3600サスティブバック」を発売しました。同製品は、再生材重量比率が43%であり、CO₂排出量は従来品に比べ41%削減されます（自社算定）。また、使用する原糸は約7割のアイテムが自社で紡糸した原着ナイロンであり、流通過程でのCO₂排出量の削減や製品の安定供給を実現します。これからも、新しい技術の開発を通じてサステナブルな社会の実現に貢献してまいります。



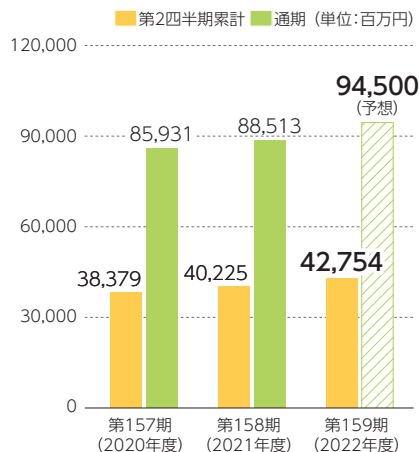
自然の風化を感じさせる表情の「ラティスパール」



広大な大地を想起させるデザインの「カームホライズン」

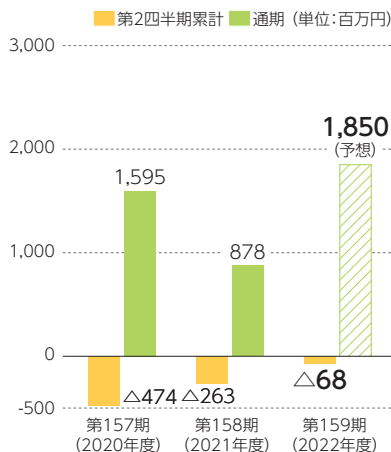
売上高

427億54百万円



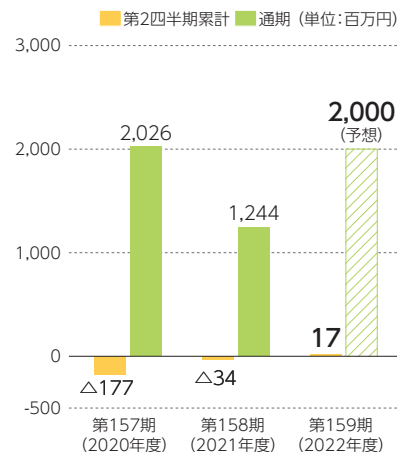
営業利益

△68百万円



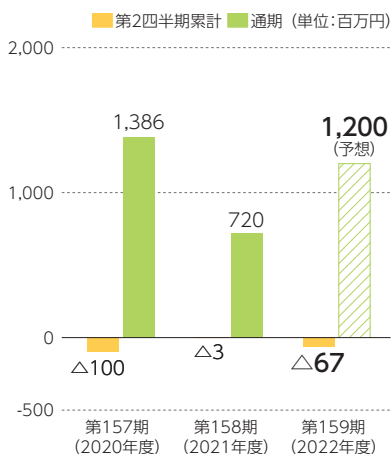
経常利益

17百万円



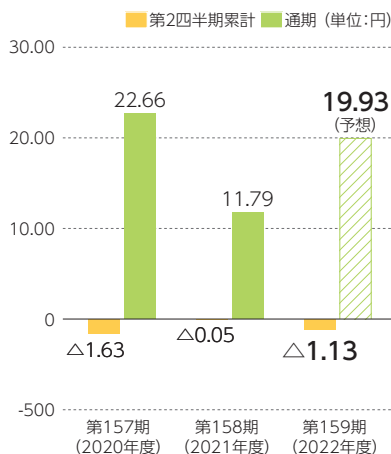
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

△67百万円



1株当たり四半期(当期)純利益

△1.13円



※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第158期の期首から適用しており、第158期以降に係る業績については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

■プロダクト事業

4月～7月発売の新商品を中心とした販促活動に注力したことに加え、販売価格の改定が浸透したことにより売上高は伸長しました。利益面では、様々な製造原価低減への取り組みが進んだものの、依然として原材料価格は上昇を続けており、後追いの価格転嫁による収益改善は一定程度にとどまりました。

ビニル系床材では、7月にビニル床タイルのリブランディングで新たな価値を提案した「タイルコレクション」を発売し、主力商品の「ロイヤルシリーズ」の刷新に加え、当社独自の技術を生かした単層ビニル床タイル「LCT (Luxury Calcium carbonate Tile)」・「VCT (Vinyl Composition Tile)」シリーズの販促活動に注力いたしました。また、ビニル床タイルとセラミックタイルの長所を兼ね備えた新・第3の床材「タフテックタイル」が2022年度グッドデザイン賞を受賞するなど、ビニル系床材は好調に推移しました。

カーペットでは、オフィス環境改善ニーズの高まりを背景に、6月に発売した「TOLI完全循環型リサイクルシステム」による環境配慮型タイルカーペット「GA-3600サスティバック」を中心に販促活動に注力いたしました。タイルカーペット全体の販売数量は弱含みで推移しましたが、販売価格改定効果により売上高は前年を上回る結果となりました。

壁装材では、7月発売の抗ウイルス壁紙を収録した汎用タイプビニル壁紙「VS」、及び昨年改廃のデザイン性と機能性が特長の「パワー1000」が好調に推移したことに加え、壁装材全体

の販売価格改定の浸透が進み、前年を大きく上回る結果となりました。

カーテンは、健やかな暮らしを支える医療・福祉施設等各種施設向け「コントラクトカーテン」が堅調に推移しました。

これらの結果、プロダクト事業では、売上高は26,012百万円(前年同期比8.7%増)、セグメント損失は137百万円(前年同期 セグメント損失19百万円)となりました。

■インテリア卸及び工事事業

インテリア関連商材の仕入れコストが上昇しましたが、販売価格への転嫁に加え、地域に密着したきめ細かいサービスの向上に努めたことにより、事業全体は順調に推移しました。また、東璃(上海)貿易有限公司では、ゼロコロナ政策による中国経済の停滞も見られましたが、同社の第2四半期累計期間(2022年1月～6月)の業績に対するその影響は軽微であり、回復基調が続いております。

これらの結果、インテリア卸及び工事事業の売上高は27,967百万円(前年同期比4.7%増)、セグメント利益は347百万円(前年同期比113.4%増)となりました。

※プロダクト事業とは、主に当社及び関係会社がビニル系床材やカーペットなどのインテリア製品を製造・販売する事業です。

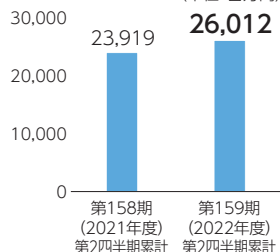
※インテリア卸及び工事事業とは、主に関係会社がインテリア関連商材の仕入販売及び内装工事を行う事業です。

(注) セグメントの業績は、セグメント間の取引を含めて表示しております。

■売上高

26,012百万円
前年同期比 8.7%増

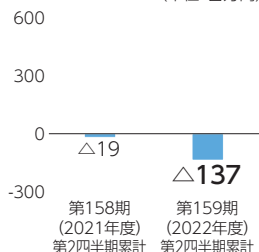
(単位:百万円)



■セグメント利益

△137百万円

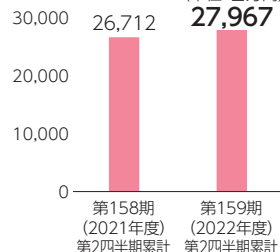
(単位:百万円)



■売上高

27,967百万円
前年同期比 4.7%増

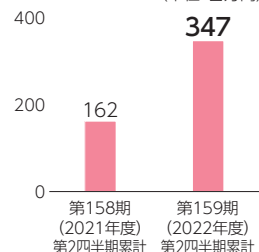
(単位:百万円)



■セグメント利益

347百万円
前年同期比 113.4%増

(単位:百万円)



四半期連結貸借対照表

(単位: 百万円)

科 目	第158期 (2022年 3月31日現在)	第159期 第2四半期 (2022年 9月30日現在)	増 減
資産の部			
流動資産	46,839	44,578	△ 2,261
固定資産	33,142	33,573	431
有形固定資産	22,116	22,698	581
無形固定資産	989	939	△ 49
投資その他の資産	10,036	9,935	△ 101
① 資産合計	79,982	78,152	△ 1,830
負債の部			
流動負債	29,353	28,125	△ 1,228
固定負債	12,343	12,236	△ 107
負債合計	41,697	40,361	△ 1,335
純資産の部			
株主資本	36,045	35,461	△ 583
その他の包括利益累計額	1,968	2,065	97
非支配株主持分	271	263	△ 8
純資産合計	38,285	37,790	△ 494
負債純資産合計	79,982	78,152	△ 1,830

四半期連結損益計算書

(単位: 百万円)

科 目	第158期 第2四半期 (2021年4月1日～ 2021年9月30日)	第159期 第2四半期 (2022年4月1日～ 2022年9月30日)	増 減
② 売上高	40,225	42,754	2,529
売上原価	29,195	31,112	1,917
売上総利益	11,029	11,641	612
販売費及び一般管理費	11,292	11,710	417
③ 営業利益(損失:△)	△ 263	△ 68	194
営業外収益	321	297	△ 24
営業外費用	93	211	118
経常利益(損失:△)	△ 34	17	51
特別利益	129	15	△ 113
特別損失	12	10	△ 2
税金等調整前四半期純利益 (純損失:△)	83	23	△ 59
法人税等合計	74	98	23
四半期純利益(純損失:△)	8	△ 74	△ 83
非支配株主に帰属する 四半期純利益(純損失:△)	12	△ 6	△ 18
親会社株主に帰属する 四半期純利益(純損失:△)	△ 3	△ 67	△ 64

POINT

① 資産合計

流動資産は、前年度の第4四半期に増加した売上に係る債権の回収が進んだこと等により、前連結会計年度末に比べ2,261百万円減少し、44,578百万円となりました。

固定資産は、滋賀事業所におけるビニル系床材製造設備への投資等により、有形固定資産が増加しました。その結果、前連結会計年度末に比べ431百万円増加し、33,573百万円となりました。

これらの結果、資産合計は、前連結会計年度末に比べ1,830百万円減少し、78,152百万円となりました。

② 売上高

新発売商品の販促活動に注力したことに加え、販売価格改定の浸透が進んだことにより、売上高は42,754百万円(前年同期比6.3%増)となりました。

③ 営業利益 (損失:△)

製造効率の向上や販売促進費の縮減、販売価格の改定を進めることで利益面の改善に努めてまいりましたが、主要原材料価格の高騰が続いていることから、営業損失は68百万円となりました。

会社概要

創立 1919年(大正8年)12月1日
資本金 6,855百万円
従業員数 891名
主な事業内容 ビニル床タイル、ビニル床シート、カーペット、カーテン、壁装材、接着剤等の製造販売
本社 兵庫県伊丹市東有岡五丁目125番地
東京本部 東京都港区東新橋二丁目10番4号
工場 伊丹、厚木
ショールーム 札幌、東京、名古屋、大阪、岡山、高松、福岡
営業所 札幌、仙台、盛岡、郡山、新潟、長野、東京、大宮、千葉、水戸、八王子、横浜、名古屋、静岡、金沢、大阪、京都、神戸、岡山、広島、高松、松山、福岡、北九州、鹿児島、沖縄

役員

〈取締役・監査役〉 代表取締役社長 永嶋元博
取締役専務執行役員 天野宏文
取締役常務執行役員 橋本昌幸
取締役 横田絵理
取締役 関根近子
取締役 藤井秀延
常勤監査役 鈴木潤
常勤監査役 江邊晴信
監査役 森川拓
監査役 渡沼照夫

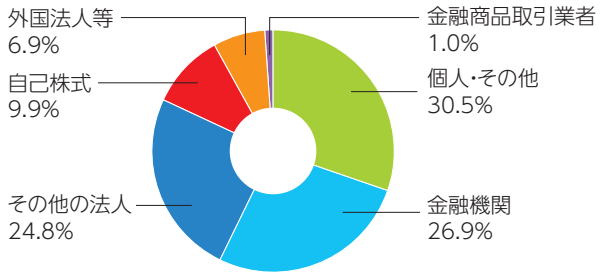
(注) 1. 横田絵理、関根近子および藤井秀延の3氏は、社外取締役であります。
2. 森川拓および渡沼照夫の両氏は、社外監査役であります。

〈執行役員〉 常務執行役員 中野洋二
常務執行役員 荒木陽三
常務執行役員 立花敦司
執行役員 田淵俊之
執行役員 工藤務
執行役員 長森正知
執行役員 蘭田信子
執行役員 児玉剛治
執行役員 加藤晃朗

株式の状況

発行可能株式総数 141,603,000株
発行済株式の総数 66,829,249株
株主数 9,408名

○所有者別株式分布状況



○大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,238	8.7
日本生命保険相互会社	3,641	6.0
株式会社トクヤマ	2,780	4.6
東親会持株会	2,000	3.3
株式会社三菱UFJ銀行	1,777	2.9
三信株式会社	1,730	2.8
双日株式会社	1,534	2.5
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,506	2.5
三菱UFJ信託銀行株式会社	1,485	2.4
東リ社員持株会	1,341	2.2

(注) 持株比率は、自己株式(6,642千株)を控除して計算しております。

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会 3月31日
	期末配当金 3月31日
	中間配当金 9月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
株主名簿管理人 事務取扱場所 (お問い合わせ先)	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 0120-094-777 (通話料無料) https://www.tr.mufg.jp/daikou/

■公告の方法

電子公告の方法により、東リホームページ(<https://www.toli.co.jp>)に掲載します。但し、電子公告によることができないやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載します。

- (ご注意)
- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
 - 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店でもお取扱いいたします。
 - 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



東リ株式会社

<https://www.toli.co.jp> 当社は、インターネット上にホームページを開設し、会社情報、製品紹介、レポートやニュースをご案内いたしております。

本誌に関する 注意事項	本誌に記載されている当社グループの計画・戦略・見通しのうち、歴史的事実でないものは将来の業績に関する見直しです。これらは、現時点で入手可能な情報に基づいた当社グループの仮定および判断によるものであり、実際の業績等は、様々な要因により、これらの見直しと異なる可能性があります。
----------------	---

表紙は、ビニル床タイル「ロイヤルウッド・テトラ」、タイルカーペット「GA-3600サスティバック」、壁装材「VS」の2022年度に発売した新商品です。

